

# 生活者レポート

狛江・生活者ネットワーク

http://komaeseikatsusha.net  
e-mail komanet.seikatsuya@nifty.com

市民が納得する民間活力の導入は●  
☆市民目線☆予算提案書●  
9月議会報告●



## 市民が納得する民間活力の導入は

今年6月に狛江市は「狛江市立保育園民営化の指針」を発表しました。現在市内には認可保育園が11園あり、そのうち6園が公立保育園です。公立保育園のうち2園を2017年度までに民営化するというものです。残る4園の民営化については、民営化移行後の2園の検証・評価などを総合的に見極め、再度検討していくとしています。

### ■市立保育園民営化にあたっての市の基本姿勢

民営化にあたっては保育園民営化指針で市の基本的な考え方として次のことを挙げています。  
① 子どもの最善の利益を考慮し、子どもの発育を尊重し支援する保育を実施する。職員配置基準なども含め現行の公立保育園の水準を下回らない保育を実施する。

### ■市民の不安

このことを担保するガイドラインを作る  
② 民営化することで市の一般財源からの財政負担を軽減し、それにより創出した財源をより豊かな子育て支援と多様なニーズに対応するために活用する。  
③ 民設民営方式とし、事業主体は実績のある社会福祉法人とする。  
④ 2016年度に宮前保育園、17年度に和泉保育園を民営化する。

市民向けに民営化指針の説明会が2回と対象となる2園で1回ずつ開催されましたが、保護者の不安は▼保育の質の担保▼コスト▼民営化に至るプロセスへの市民参加に大別されます。

▼保育の質の担保：市民はなぜ公立認可保育園が私立認可保育園になると質が低下すると考えるのかといえ、ひとりあたりの子どもにかかる運営費が公立は私立の1.5倍以上かかり、それは人件費に由来するとされるからです。保育士の平均勤続年数も公立20年に対し私立8年から14年5か月と短いです。保育士の平均年齢も大幅に違い、このことが私立の労働環境の不安定さを想像させ、子どもたちへの影響を心配しています。経験豊かな保育士に育児相談したいとの希望もあります。反対に市内で公立と私立を経験した市民からは私立保育園の質は決して劣つ

ていない、年齢の高いベテランの質の高い保育とは言えないという意見や民間の柔軟性独自性に期待する声、引き継ぎをしつかりやることが重要とする意見がでています。

▼コスト：行政運営の効率化（コスト削減）ということだけでの民営化に対しては保護者の警戒は強く、どういう基準で民間の運営事業者を選定するか、民営化によるコストパフォーマンスの丁寧な説明がほしいなどの意見があります。

▼プロセス：情報がなかったことで突然の民営化に驚いている、丁寧な説明を要望する、移行期間が短すぎる、これからの民営化へのプロセスに保護者も参加し意見を交換しながら一緒に新しい園を作り上げたいという意見などが相次ぎました。

### ■民営化するにあたって解決すべき課題

① 保育の基準  
狛江市が民営化するにあたっての基準、ルールづくり、つまりガイドラインの作成が必要です。市は開催中の「子ども・子育て会議」の中で専門家や市民委員と検討を行い作成するとしています。

子どもへの育ち、発達にとって子どもの最善の利益とは何なのか十分な議論を重ね、保護者や保育従事者からの意見も反映して作成し保護者の不安を払拭しなければなりません。事前の情報共有、話し合いによる合意、移行期間などに

配慮しつつ保育士の配置や年齢のバランス、継承すべき保育内容と独自性の許容等々を明記し、適切な事業者の選定が行われるようなガイドラインの作成を要望します。

② 保育の質を維持するために必要な市の責任  
公立・私立を問わず保育内容を把握し、民間移行後の確認の場、情報交換の場が必要です。現在狛江市においては私立保育園の方が積極的に第三者評価を受審し結果を公表していますが、質の点検には保護者アンケートの実施や、保護者も市も第三者評価などによるチェックができるようにすること、保育コストの削減で多様なニーズへの対応が実現したのかなど移行後の検証は必ず行い公表するなどのことを明記する必要があります。

### ■大事にされるべきは子ども自身の育ち

「保育事業は一番質の高いレベルで執行できるところに任せていくべきだ」とは元我孫子市長の福嶋浩彦氏が民間活力の導入を検討する際に基本方針とした考えです。「公立保育園」として直営で行くなら費用対効果も含めて民間より質の高い実施者である時のみだとも言い切っています。我孫子市公立保育園の障がい児の受け入れは、質の高さゆえに保育予算は非常に高額になっているが、こういう税金の使い方を侃々諤々の議論の末、主権者市民が決定すればこそ市民は納得できると述べています。

### ☆市民目線☆予算提案書

毎年秋に狛江市に対して、生活クラブ運動グループでまとめた☆市民目線☆予算提案書を提出しています。市民から届いた「一言提案ハガキ」(本年は今までに40通とどきました)や、七夕に行った映画上映会の来場者が短冊に書いてくれた要望の中から、給食のこと、図書館開館時間を9時からに早めること、総合体育館の第2体育館の壁に吊り棚式物入れを設置することなどの要望を盛り込み、市政全般にわたった予算提案書が出来ました。

前市長ではなかなか実現しなかった市長面談ですが、昨年市長交代後、二年連続で実現しています。やはり、市民要望は文書だけではなく、当事者の生の訴えを直接聞いてもらう場が必要です。市政への意見や疑問は、諦めたり躊躇せずに、声をあげていきましょう！2014 予算提案書は狛江・生活者ネットワークホームページでご覧いただけます。 松崎淑子



市長に予算提案書を手渡し、まちの様子を意見交換

## 吉野芳子の 9月議会報告



狛江市議会議員吉野芳子  
<http://yoshino.seikatsusha.net>

■9月議会は9月2日から10月8日まで開かれました。

### ◆和泉多摩川緑地の都立公園化に！

和泉多摩川緑地の都立公園化について市長が東京都に要請文を提出しました。昭和17年に緑地として都市計画決定がされている和泉多摩川緑地の都立公園化に向け、東京都の知事本局、総務局など関係各局と調整の上、作成した要請文書を知事あてに市長が提出したとの行政報告がありました。これまで市の動きがまったく見られなかった東京都との交渉の第一歩を踏み出したことは、憩える緑環境の充実、発災時の防災拠点を目指す市民要望に添うものです。

### ◆大規模な土地利用の変更に構想段階からの市民参加

狛江市まちづくり条例の一部を改正する条例が提案され、可決しました。大規模開発等事業による住民とのトラブルを回避するため、構想段階から届け出を行い、周囲の土地利用の実態に応じた適切な開発になるよう、市は積極的な情報提供をすることが明記されました。今後はマスタープランを具体化する地域ごとの都市整備方

針及び計画を市民参加で策定することが重要です。

### ◆拡大生産者責任の実現を

狛江・生活者ネットワークは「容器包装リサイクル法を改正し、発生抑制と再使用を促進するための法律の制定を求める意見書」を提案し、全会一致で採択されました。今日の異常気象、気候変動防止の観点からも資源の無駄遣いによる環境負荷を減らし、持続可能な社会への転換は急務です。自治体が税負担で容器包装を分別収集しているためリサイクルに必要な総費用のうち約8割が製品価格に内部化されていません。結果として、事業者には発生抑制や環境配慮設計へのインセンティブが働きません。一刻も早い法改正が必要で

### ◆決算審議やつと会期を早める

2012年度決算特別委員会は9月25、26、27日に開かれました。5月末には出納閉鎖し8月には総務省に決算報告をしているわけですから決算審議を次年度予算に反映させるために会期を早める事が必要だと生活者ネットは提案し続けてきました。すでに他自治体では8月中に主要施策と基金の決算を公表し市民の行財政参加を支援しています。政策予算がとりまく市財政が逼迫している現在、市債発行の抑制や計画的な基金積立など規律ある財政運営に努める事が重要です。新たなまちづくりへの提案につながる3中移転の中止の判断は評価できます。多様な保育ニーズに応える家庭的保育への

理解と保育ママの増員、子どもが主体者として関われる場の一つである常設のプレーパークを市民協働で実現すること、子どもの権利と命を守るチャイルドラインの相談日数拡充と人材育成を次世代支援施策として要望しました。収束の目途の立たない原発事故は予断を許しません。非常事態への対策としてヨウ素の準備などを求めました。狛江市エネルギー計画を策定し、省エネと同時に避難所となる教育施設などできる限りの施設に太陽光発電を設置し、市民発電を支援するなど自然エネルギー推進に向けて積極的に取り組むべきです。喫緊の課題である国民健康保険の健全化は過剰な医療と投薬の防止に医師の協力を得て進めるよう要望しました。少子超高齢社会、団塊世代の高齢化という現実を踏まえ、敬老金など高齢者福祉の抜本的な見直しを指摘しました。現場に行き、市民と向き合う実践を評価し、市民への説明責任を十分に果たし市民力を生かした市政に期待し本決算を認定しました。



狛江の市民と共に世田谷区千歳台にある生活クラブ・ケアセンター世田谷を視察。在宅ケアを支える小規模多機能ホームや認知症の高齢者が共同で生活する住まいグループホームちとせなどを併設する地域の福祉拠点です。

## 吉野芳子の一般質問

### ▼市民の健康に奇与する多様な「食」の提供を

▲狛江市小学校給食調理委託が2014年度第5小学校から実施される予定です。給食の質や安全に配慮し適正な委託業者を選定し、安定した給食の提供に努めるとのことですが、仕様書には質が低下しないためのきめ細やかな項目を盛り込むよう要望しました。またこれまで同様素材からの手づくりを徹底し、環境や健康への配慮による石けん使用については継続すると回答を得ました。  
▲改修している市の食堂は『市民の食堂』として多様な市民ニーズに応え、市外からも利用客のある魅力と特色のある新しい価値を付加すべきです。健康に配慮したメニューを市の栄養士と連携して提供するなど多くの意見やアイデアを市民から募集する市民参加の必要性を指摘しました。市では高齢者配食サービスの意義は安否確認や見守りと健康な在宅生活を支援することだとしています。現在2事業者で実施しており、委託食数に偏りが顕著です。事業に支障が出ないよう地区割りなどの対策を求めました。要支援者制度の見直し議論の最中ですが、狛江市では介護保険認定者のみ配食対象としていることも含め、新たな検討をしているとの回答でした。

### ▼「保育の質向上を目的とする民間委託の実現と市民力を生かした保育の充実を

▲保育園民営化は保育需要の適切な対応や多様な保育サービスの提供と効率的な行財政運営の両立を図るために進めているとの説明でした。保育の質は第三者評価を活用して、客観的に判断すべきと指摘しました。また、インクルーシブの理念のもと、障がい児保育のより一層の充実を要望しました。  
▲乳幼児と保護者にとって望ましい家庭的保育を担う保育ママが3人になったことは評価できます。円滑な運営と増員にむけて更なる支援を要望しました。多様な保育形態として活動を広げている自主保育を評価し、支援策を打ち出すよう求めました。開催されている子ども・子育て会議での議論は重要です。討議事項が多く会議日数が少ないので議論を深める方法を工夫すべきと指摘しました。



松本市で開催された全国自治体シンポジウム「地方自治と子ども施策」に参加。子どもの権利のために奔走している森田明美東洋大教授、喜多明人早大教授らと。(右から2番目が吉野芳子)

### ▼放置自転車の効率的で戦略的な対策と災害時の安全な水の提供を

▲放置自転車対策には都の緊急雇用創出事業の補助金を活用しています。業者選定の適正さ、被雇用者の労働環境を市は把握すべきです。見回り監視員は都の補助金がなくなっても必要であり、市単独事業になった時の戦略的で効率的な具体策が必要です。利便性の高い駅周辺の駐輪施設の充実と世田谷区や小田急電鉄との協議連携を求めました。  
▲災害時の安全な水の確保と供給体制については万全であるとの回答を得ました。防災意識が市民の間で高まる中、さらに自助・共助と分散備蓄を広げることは重要です。市・消防団だけでなく町会・自治会などで発電機、トイレや食糧の他に、風呂やプールの水などを浄化して飲み水にもできる手動式の「中空糸飲料水製造装置」の周知をし、備蓄の促進・拡充を積極的に進めるべきと指摘しました。

「不登校なう」上映会としゃべり場に参加  
9月22日狛江で子どもに関わる活動をする団体、こまえチャイルドライン、フリースクールこびえ、不登校の親の会(OYAOYAの会)、プレーパークをつくる会、サポート狛江が共催。東京シュール制作のDVD「不登校なう」を観たあと、制作に関わり出演した本人からいじめ、不登校、ひきこもりになった理由や思いを聞きました。参加した人たちからもそれぞれの思いが語られ、良い雰囲気の中で交流ができました。自分の言葉でしっかりと考えを表現できる本人たちがすばらしい！  
吉野芳子